

No.	12-1-6	場所	中川村南田島	次世代への継承キーワード
名称	家を押しつぶした「なぎ」の不気味な亀裂			前兆現象 / 早期避難
災害現象	斜面崩壊			河川 天竜川
補足事項				支流

諏訪市 岡谷市 辰野町 箕輪町 南箕輪村 伊那市 高遠町 長谷村 宮田村 駒ヶ根市 飯島町 中川村 大鹿村 松川町 高森町 豊丘村 喬木村 上村 飯田市 南信濃村 清内路村 阿智村 浪合村 平谷村 下條村 阿南町 売木村 天龍村

中川村では手の施しようの無い、大惨状となった。村内の死者 18 人、負傷者 8 人、流出家屋などの被害 314 戸。農林業や道路・橋などの損害も甚大で、全村の耕地面積の約 36%が流出するという大被害であった。

●体験談：当時中川村中川西中学校 3 年生

「死ぬなんていやだなん。まだ先がながいじゃんなん。」
 といって二人で手をつないでねていた。ねていたといっても、「ゴト」と音がするとはっと目をあけて、「何の音？」といった調子だった。私がうとうとした時突然、「ゴロゴロドシャーン」という音がした。びっくりしてとび起きてみると、前にあった自分の家が影も形もなくなっていた。なが屋が保矢沢川の側まできて、「ガシャーン」といった調子だった。

あとから父に聞いたら家がつぶれる一、二分前まで雨があんまり降るので牛がかわいそうだと納屋に入れると、牛を入れてしばらく庭に立っていたという。そして**なんの気なしに上をひよいと見たらすごく大きい木が空につき出ている。それでっぺんが少しゆれたという。それでびっくりしておとなりの入り口へ飛び込んだという。そして父は、**

「一瞬ちゆうけえど、ふんとに一瞬だった。今までにこんな危ねえめにあったことは一度もねえ。」
 といって私達を心配させたりした。

家がつぶれた。自分のその時の気持ちといえば、ただぼう然とかじ屋の入り口に立っていた。そのうち涙がポトリと出ただけで、つぶれてすぐに悲しいということを感じなかった。どうしたわけが、家がつぶれたのに悲しいということを感じないのか。その時は皆、夢中で逃げろ逃げろで大さわぎだった。

自分の家は保矢沢川の土手までできていたので逃げるにも川はゴウゴウというし、山は又くずれてきそうだし、その時の顔は不安と心配とでこぼばっていた。おとなりのおじさんは病気のおばさんをおぶい、おじさんはまごに、「早くおいなやれ。」と手を引かれて保矢沢川の橋まで来て渡ろうとした時、突然むこう山がくずれだした。

「みんな早く渡れ、渡れ。」
 といって死にものぐるいになって兄は叫んでいた。私達もひっしになって飛んだ。真中に川をはさんで家のうら山とむこう山、両方の山からせめられてしまって一時はとじ込められてしまうかと思った。
 お宮の御社殿がつぶれて、私の家、おとなりは振動でつぶれてしまった。

（「濁流の子」より）

記 録



家を押しつぶしたなぎには無気味な亀裂が生じている。

出典 「中川村の災害誌」p.10/ 「濁流の子」 p.12

備考

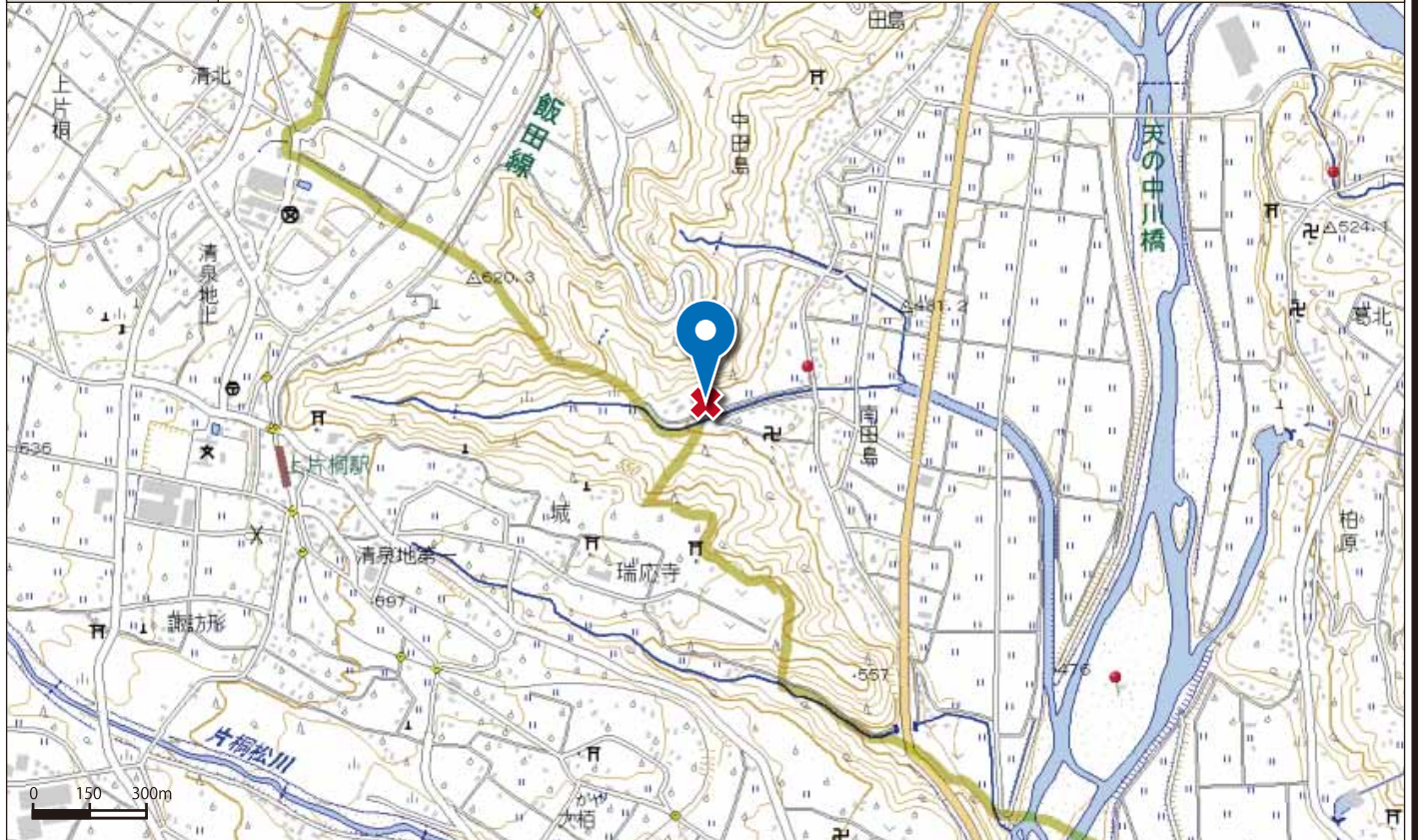
No.	12-1-6	場所	中川村南田島	緯度	35.619024
-----	--------	----	--------	----	-----------

名称	家を押つぶした「なぎ」の不気味な亀裂			経度	137.914942
----	--------------------	--	--	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。